



さいたま市シニアユニバーシティー岩槻校第9期校友会会報第1号

会長挨拶

会長 瀧田 ○○

関谷会長の後任として会長職を務めさせていただきます。私のモットーは「出会いを大切に」であります。私どもの全体集会在「参加してよかった」と感じ取れるものにするには、それぞれの創意工夫他なりません。皆さんから新しい魅力ある企画の提案をお待ちしております。

私たち、シニア大学も6年目になりました。校友会の会員である私たちも皆5歳年をとりました。でも皆さんとても若く元気な方ばかりです。毎年文化祭でも澆刺と踊り、唄い、バス旅行でも史跡巡りでも本当に大勢の皆さんが会を盛り上げて下さっております。

新聞のコラムに「人は知り合って知人となり、語り合って友人となる。友人は助け合って、親友となり、親友が集まって仲間となる」とありました。私たち校友会会員は良き仲間の集まりであります。心底そう思います。私ども役員一同、総力を挙げて皆さんが「出席してよかった」と思って下さる全体集会和行事を考えてまいります。皆さんの力が、知恵が我が9期の展望を明るい魅力あるものにするのです。どうかよろしくご協力くださいますようお願い申し上げます。

30年度総会開催

ほてい家

新年度の総会が41名の出席のもとほてい家にて開催。坂本副会長の司会で1号議案から3号議案までを29年度の関谷会長の議長で審議、可決され30年度の新役員が下記の通り発表された。関谷会長からこれまでの2年間にわたる校友会員の協力に感謝の言葉があり、引き続き議長に瀧田新会長が選任され、30年度の4号議案事業担当者（前澤副会長）・5号議案行事計画（町田副会長）・6号議案予算案（澄川会計）が上程され、慎重審議の結果賛成多数で承認可決された。

30年度の会員数は5名の退会があり46名でのスタートとなった。引き続き、ご尽力いただいた関谷会長と坂本副会長に感謝状が贈呈され、2年間の労に心からの感謝の気持ちをお伝えした。瀧田新会長から新しい年度に対する抱負と、「神は一人で十分だが、友人は一人では物足りない。

| 職名 | 氏名 | 班 |
|-----|-------|----|
| 会長 | 瀧田 ○○ | 2班 |
| 副会長 | 前沢 ○○ | 5班 |
| 〃 | 町田 ○○ | 2班 |
| 会計 | 皆川 ○○ | 4班 |
| 〃 | 澄川 ○○ | 2班 |
| 総務 | 浪江 ○○ | 4班 |
| 〃 | 坂本 ○○ | 4班 |
| 広報 | 樺木 ○○ | 6班 |
| 〃 | 瀧田 ○○ | 2班 |
| 監査 | 牧野 ○○ | 6班 |
| 〃 | 濱野 ○○ | 4班 |

幸いにして私どもは既に46人の友人を持つことができた。皆で協力して我が9期を盛りたててゆこう」との挨拶があり、総会を締めくくった。29年度の9期の行事は16回の事業があり、GG大会や岩槻協議会旅行などの催しもあったが、平均の参加率は83%と言う驚異的な数字であった。全ての事業に積極的な参加があり我が9期の誇りであると感じた次第である。これほどの数字は他の期には多分あり得ない快挙であると考えられる。懇親会の席上、浪江総務から29年度を振り返った各種事業の映像をPPで上映して頂き、思い出など再確認する事が出来た。30年度も盛り沢山の行事予定があり、校友会会員が楽しく参加でき、且つ有意義な集会在続くことが我が9期が末長く存続する証である。

『開運二大スポット香取・鹿島神宮&小江戸さわら町並散策』

平成 30 年 3 月 1 日
校友会協議会研修旅行

3 月 1 日（木） 暴風・雨警報が発令されている中、岩槻駅西口駅前を、バス 4 台で午前 7 時に出発。東北道・常磐道・圏央道を經由し、香取神宮に到着。

バス走行中は雨模様であったが、嘘のような好天となり、気持ち良く参拝ができた。その後、酒蔵見学（老舗東薫酒造）、歴史の息づくさわらの町並みを、小野川沿いに散策、伊能忠敬旧宅にある、歴史ある方位盤などを見て、昼食会場へ移動・食後、鹿島神宮へ参拝に、楼門から本殿参拝後参道を奥宮・要石まで行き研修は終りとなった。

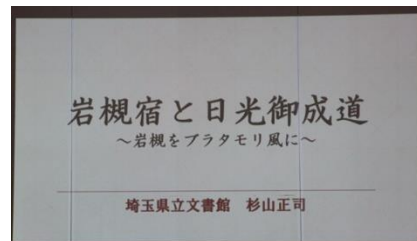
第 11 期研修旅行委員の方には、大変お世話になり、有難うございました。
第 9 期の参加が、少なかったのは残念でした。



岩槻宿と日光御成道

埼玉県立文書館館長 杉山 正司氏

予てより依頼していた表記講座が 3 月 13 日に開催。杉山先生は昨年 7 月に放映された NHK「プラタモリ大宮」編の案内役で出演され、その裏話などをお聞きすることが出来た。表題のとおり、住民である我々が御成街道とか岩槻宿と普段日常的に言っているが、その謂れなどについて詳しく説明をお聞きした。その後杉山さんが監修政策された「埼玉の明治維新」という 2 月に完成したばかりの DVD を見せていただき、江戸末期から今日までの埼玉の発展の様子を垣間見ることが出来た。講演の後、「真剣に聴き惚れた」とか「とても興味があり有り難かった」といった声が聞こえた。



第 6 回 「さいたまマーチ」～見沼たんぼ

平成 30 年 3 月 24 日（土）



校友会連合会では 400 人を超す会員の参加がありました。岩槻 9 期校友会員 7 名は新都心駅に集合し、好天に恵まれスタート地点である高沼遊歩道へ、チェックを受け、本年度は、見沼たんぼ南ルートコースに、さいたま新都心駅から官庁街を通り街中散歩の気分、ほどなく見沼代用水西縁へ、桜の開花は 2 分咲きで幾分物足りなさを感じながら遊歩道を歩き、『さくら草特別支援学校』を經由し見沼臨時グラウンドにてチェック、昼食休憩、連合会計画で、『しらこぼと音楽団』の伴奏による懐かしの歌を合唱。休憩後、芝川沿いに水たまりをよけながら進み、『造幣さいたま博物館』横を通過し一路ゴールへ、全員完歩証を受領しました。

他人に喜びを運ぶ人は、それによって、自分自身の喜びと満足を得る。ウォルト・ディズニー

両墓制地域めぐりと総会開催

平成30年3月14日水曜日、史跡めぐりクラブは、まさにすばらしい晴天の中、午前中は、御成街道沿いの両墓制地域めぐりをして、午後から平成29年度の総会が開催されました。

午前9時45分に岩槻駅に集合し、岩槻上野地区と古ヶ場地区の両墓制の「埋墓」「詣墓」を訪ね、時代の波で周囲の環境が変わりつつある中でも、往時を偲ぶことができた後、平成29年に国登録有形文化財（建造物）に登録された加藤家（組頭）主屋を見学して記念撮影を致しました。

この後、松鶴園駐車場より、「ふな又」の送迎バスにて総会会場へと向かいました。午後は、「ふな又」に於いて総会が開かれ、平成29年度の活動報告と収支決算報告、そして平成30年度からの運営方法については、グループ編成をして活動をするという画期的な提案が企画担当者からあり、又、年間の活動計画も策定され皆さんからそれぞれ承認されました。次に、役員の変更については、小野部長・黒川広報担当が退任され、増山副部長が部長に、増田さんが広報担当に推挙され新体制となりました。

新態勢も整って皆で明るく楽しいクラブ運営を約し、続いて会食となり和気藹々と懇談に移り（総会出席者17名）総会終了となりました。

一年間、スタッフの皆さん、コースの選定・現地確認など大変な仕事こなしていただき感謝しております、有難うございました。小野部長・黒川さんお疲れ様でした。



加藤家門前にて

岩槻区上野地区



埋 墓



宝生院歴史的風土保存
(埋 墓)

岩槻区古ヶ場地区



詣 墓 (永福寺跡)



埋 墓



史跡めぐりクラブ総会 於：「ふな又」

史跡めぐりクラブの行事予定

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-----------|
| 6月20日 | 江戸東京博物館「発掘された日本列島」 | 9月19日 | 松陰神社と井伊直弼 |
| 12月5日 | 箭弓神社と吉見の百穴 | 1月9日 | 向島七福神巡り |
| | | 3月2日 | 岩槻区内散策・総会 |

平成30年度:第1回史跡めぐり

愛宕神社と増上寺等を訪ねる

4月5日(木)大宮駅豆の木集合、09:15JR京浜東北線にて出発、10:00 過ぎ浜松町駅に到着、史跡を巡る散策には、絶好の日和となりました。

早速、旧芝離宮恩賜庭園に入園し、庭園美と桜を観賞、次に、柴大神宮を經由して芝東照宮に参拝、それから増上寺へ、港区役所にて昼食、お薦めのメニューで美味しく頂きました。休憩後、愛宕神社に参拝し、巫女さんから出世階段や神社の由来について説明を受け、続いて NHK 放送博物館を見学、放送の始まりから現代に至るまでの放送機器等の展示品を見学し、14:00から8Kハイビジョン放送を観覧14:45に終了。

復路は、地下鉄神谷町駅 15:12 の電車にて恵比寿駅でJR湘南ラインに乗り換え、大宮駅には 16:10 に到着、解散となる。

今年度は、グループ単位に分けて、企画から実行まで、担当することになった。



芝離宮



愛宕神社



増上寺とTVタワー

「岩槻の伝説」
第1回

手なし不動

3班 田村 ○○

むかし、慈恩寺の雑司山という所に不動様を祀ったお堂がありました。高さ75cm 程の慈覚大師の作といわれる立像です。ある日の真夜中、一人の泥棒がこのお堂に忍び込み不動様を盗み出してしまいました。泥棒は帰る途中、道端の竹藪に入って一休みしました。ここは龍門寺という寺の竹藪でした。暫くして出かけようとしたところ、不動様はびくとも動きません。泥棒は仕方なく不動様をその場において逃げていきました。

次の日寺の小僧が竹藪の不動様を見つけてびっくり。和尚さんは大切に元のお堂に戻しました。ところがどうしたのか、不動様は何度かえしても又、龍門寺の竹藪に戻ってしまうので、和尚さんはお堂を建てて祀りました。

不動様は、いたずらずきでした。毎晩、大入道となつては日光街成道に現れ、通行人を驚かしてよろこんでいたのです。月が明るく輝く冬の夜のこと、高下駄をはいて、謡曲を歌いながら一人の武士がやってきました。不動様はいつものように一つ目の大入道となつて武士の前に立ちふさがりました。普通の人のように逃げ出すことなく、この武士はひるむことなく刀を振りかざして大入道にきりつけました。すると、異様な大きな響きをたてて大入道は倒れ、それと同時に湧き出た黒い雲が天地に広がり、月を覆い隠したため、あたり一面はたちまち闇につつまれてしまいました。

翌朝、龍門寺に祀られていた不動様の腕がきりとられていたのだそうです。そこで、つなぎ合わせようと何度試みてもすぐにとれてしまうのです。その為「かすがい」止めにしておすことができました。それからは、大入道のいたずらもなくなり、一旦手をなくしたので手なし不動とよばれるようになりました。そして、今は龍門寺本堂に安置されています。